

(国語)

自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成 ー読書活動につながるー

大阪市立三軒家西小学校

1. 研究主題設定の理由

本校は、全学年単学級の小規模校である。人数が少ないことを生かして、縦割り班活動や週替わりの朝会、活発な委員会活動など、様々な三軒家西小独自の活動に取り組んでいる。他学年との関わりが多い分、難しい問題に直面することも多いが、子どもたちは、どう解決すればよいか悩みながらも、日々成長している。私たちは、これからの社会を生きる子どもたちに、4つの力を付けてほしいと考えている。(①自分の考えをもつ力②チャレンジし、続ける力③自分の考えを表現し行動する力④自分も人も大切にできる力)また、本校のもう一つの特徴として、積極的に読書活動に取り組んでいることが挙げられる。読書活動は、「考える力」「感じる力」「表す力」を育てるとともに、豊かな情操を育むことができる。それは、目標としている4つの力を身につけることにつながる活動であると考ええる。

そこで、本校では、これまで取り組んできたことの良さをさらに生かすことができるよう、研究主題を「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成～読書活動につながる～」と設定した。

研究仮設

読書活動につながる授業づくりの中で、自分の考えをもち、ともに学び合うことで、子どもは、4つの力を身につけることができる。

2. 研究の趣旨

本校では、昨年度の学力経年調査の結果から、児童の国語力に課題を感じていた。そこで、国語科を中心に、読書活動につながる授業づくりを研究していくこととした。

例えば、2年生「お手紙」(東京書籍)の教材を使って学習する単元では、つけたい言葉の力が「友達の感想と同じところ、違うところを知る」「自分だったらどんな気持ちになるか考える」とある。この単元では「お話から感想をもつこと、自分だったらと考えることにつなげる授業を組み立てる」ことが指導のポイントとなる。また、「こんな本も一緒に」では、同じ作者の本が紹介されていることから、この単元で身につけた力を、別の作品・読書でも使えるようにしていくことで、目指す子ども像に近づけることができると考える。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 国語科の授業を読書活動につなげる

○並行読書に取り組む。

- ・同じシリーズの本を読む。
- ・登場人物に手紙を書く。
- ・山場がどこかについてブックトークをする。
- ・作者の関わる新聞づくり など

視点② 自分の考えをもち、ともに学び合う力をつける

- ペア学習、グループ学習など、学習形態を工夫する。
- 一人一枚のホワイトボードに考えを書き、全員が発表する。
- 初発の感想から、学習課題を設定する。など

視点③ 読書を楽しむことができる子どもを増やす

- 同じ作者の作品を読む。
- 読んだ本を読書郵便で紹介する。
- 他教科でも本の活用を図る。など

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 1・4・6年は、年間を通して「自分も人も大切にする力」が身についていると感じている児童が多かった。
- 2・3年は、2学期以降、特に「考えをもつ力」が高まってきた。
- 5年は、年度当初から比べて「チャレンジし、続ける力」が最も伸びてきた。
- 学校全体として「自分も人も大切にする力」が高い傾向にあった。

(2) 今後の課題

- ほとんどの学年で「考えを表現し、行動する力」が、他の3つの力よりも、身についたと感じている児童が少なかった。次年度、特に「自分の考えを表現し、行動する力」を伸ばしていけるよう、研究に取り組む。